

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五・六(公衆)〇四七二(22)七二〇七

全国大混乱 農工脱総評の松崎・労働革新

国鉄「分割・民営化」阻止 / 三里塚二期着工粉碎!

「総評」県評「地区労」の家畜が全国で

動労「本部」が、総評脱退決定して以降、地方においては動労革マル松崎の意に反して総評一県評一地区労からの脱退拒否が相次いでいる。「分割・民営化に反対している国労への支援を総評がやめないから」として「動労はこんな総評の下でやっていけない」などの屁理屈をつけて脱退するというこんな反動方針が受け入れられるワケがない。

自民党のさしがねで、国労・総評解体「総決算」攻撃の手先に

動労革マル松崎は「総評脱退」を自民党からさしげされたのだ。そのねらいは国鉄「分割・民営化」反対のたたかいの分断・破壊である。

中曾根の「戦後政治の総決算」攻撃とは国鉄「分割・民営化」で国鉄労働運動を解体することによって、総評をもつぶしてしまおうと総評をつぶすことによって社会党をもつぶしてしまおうというものだ。総評・社会党をつぶしてしまえば、どういふことになるのか、後はどのようになるかは明白だ。

国労解体、総評脱退を決定した松崎は県評や地区労については状況に応じ判断などと、二枚舌をもちいて組織下部を何とかたぶらかそうとしている。しかし、分割・民営化反対を掲げている県評・地区労が、どうして松崎の総評・国労解体方針を容認することができようか。

心ある動労組合員が、「革マル」松崎弾劾に離反へ

中曾根の分割・民営化攻撃の先兵となり、国労・総評破壊にはしる松崎の正体が明らかにされた。


これまで「総評の一員」「社会党の一員」などという顔をして内部から破壊しようとしてきた。松崎は総評「脱退宣言」で「心ある仲間とともに全労協加入から労働戦線統一の大道を堂々と進む」といつている。(この首相も同じことを言っていた)

かつて、日本労働運動が破壊されて産業報国会と化し、侵略戦争に加担していったとき、まず掲げたスローガンが「ストライキ放棄」であったことを忘れてはならない。

松崎は「労使共同宣言」でいちはやくスト放棄を決め、いま総評脱退一全労協加入をやるうとしている。この松崎の超反動方針によって自分だけが新会社へと生きのこるために取りかえしのつかない重大な誤りを動労組合員におしつけようとしている。

しかし、動労の良心ある組合員は確実に松崎方針の犯罪性に気がつきはじめている。

動労が総評脱退 委員長 全労協へ
 加勢勲きかけ 動労委員長会見



綿密なシナリオ 路線転換の仕上げ

動労米子は両県評残留

柏木「地域労働運動の」

当面は県評加盟継続へ

動労北陸地本

動労四国地本

動労四国地本

動労四国地本

動労四国地本

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!